

国際会議  
「新時代の日米韓協力：北東アジア三カ国対話」  
公開シンポジウム  
2009年5月18日-19日 於：東京全日空ホテル

世界平和研究所は、2009年5月18日、19日の両日、日本財団の協賛を受け、東京全日空ホテルにおいて、米国平和研究所 (USIP) と韓国外交安保研究院 (IFANS) との共催で、「新時代の日米韓協力：第3回北東アジア三カ国対話(3rd Trilateral Dialogue in Northeast Asia Meeting)」と題する国際会議を開催した。



本会議は、国際情勢、外交、安全保障等の幅広い分野について、日米韓三カ国が対話を深めることを目的として、2008年から開催されており、今回の東京での会合は3回目となる。会議では、①グローバルな問題、②北東アジアの地域レベルの問題、③北朝鮮問題等の朝鮮半島の問題、の3つのレベルの問題を意見交換のテーマとして、自由な意見交換を行うとともに、グローバル化する世界の中で、日米韓三カ国が今後どのような協力を行っていくべきかについて、具体的な政策アイデアの創出が話し合われる。

18日から19日午前中にかけて開催されたクロード・セッションでは、日米韓各国の政治家・政府関係者・専門家など約40名が参加し、朝鮮半島をめぐる問題、地域協力の問題、グローバルな問題に対する日米韓協力の構築を議題として、活発かつ有益な意見交換が行われた。





IIPS

平和研講演会シリーズ 2006  
2006 IIPS Lecture Series  
“国際的な信頼醸成と我が国の役割”

それに続いて19日午後を開催された公開シンポジウム（司会：薬師寺泰蔵・当研究所研究主幹）では、林芳正 参議院議員、田中均 日本国際交流センター・シニア・フェロー（元外務審議官）、田奉根 韓国外交安保研究院教授、ウィリアム・ニューカム 元米国財務省上級顧問、李瑞恒 韓国外交安保研究院教授、ジョン・パーク 米国平和研究所東アジア部長、鄭玉任 韓国国会議員、アヴィオダン・ウィリアム 米国平和研究所副理事長、長島昭久 衆議院議員の各先生をパネリスト（発表順）として、活発な議論が行われた。主な内容は以下の通りである。



<韓半島情勢における日米韓協力>

- 冷戦の社会主義国の体制移行モデルで、北朝鮮は権威主義体制の中で市場経済化の微前進と後退を繰り返すモデルだが、このモデルは永続的ではない。
- 北朝鮮の非常事態に備えて、危機管理にむけた協力が不可欠。日米韓三カ国で対話を通じて情報と認識の共有を行うことが何より重要。
- 北朝鮮の核放棄を目標として、六者協議のメカニズムの中で、日米韓三カ国の連携による一貫性のある対話と圧力を行うことが重要。北朝鮮の大量破壊兵器拡散・非合法活動に対しては金融制裁も有効な手段。

<海賊問題における日米韓協力>

- 海洋の安全は、日米韓三カ国が共有する利益であり、ODAと海賊対策との組み合わせを工夫して、対策を実効性のあるものにすべき。
- 海賊対策において日本は、日韓協力や多国間協力を法制度的に可能にし、対策の実効性をあげてゆくべきである。

<グローバル問題における日米韓協力>

- 韓国は低炭素社会実現のためグリーン・エコノミー化を多方面で推進。
- 日米韓三カ国はODAを利用して農業分野など途上国のグリーン・エコノミーの実現に協力すべき。
- 海洋資源の共同開発など、アジアの地域共同体を視野に入れて、日米韓は今後連携を深めるべき。

また、シンポジウム後に開催されたレセプションでは、来賓として中曽根弘文 外務大臣からご挨拶を賜り、第3回会合は成功裏に幕を閉じた。

